

令和元年 4 月末日

教育学部長 殿

FD 委員会委員長

福田 亘博

平成 30 年度前・後期における「学生による授業評価及び授業点検シートによる教員の授業改善に関する現状と課題（報告）」

教育学部は、平成 26 年度教育学部設置し、平成 29 年度に完成年度を迎えた。完成年度に至るまでの間、学部を設置時に認可された教育及びその教員体制は維持し、さらに教育に関わる FD 活動などは文部科学省に申請したことを遵守することを求められ、毎年度末には現状と課題等を報告してきた。教育の質保証・改善の面から、FD 活動は特に重要であることは言うまでもない。平成 29 年度には、FD 活動の一環として前・後期における「学生による授業評価」を集約し、さらに専任教員により「授業点検シート」を総括し、「教育改善の PDCA サイクル」を総括する予定であったが、後期に本学の授業評価等を管理するデータベース上に構築したシステムに不具合が発生し、授業評価が実施できなかった。そのため、前・後期における授業評価を平成 30 年度に総括することを報告した。また、教員による授業点検シートによる授業改善についても整理・総括した。

今年度、本学部の専任教員及び学外の非常勤講師の担当するすべての講義・演習・実験等について、学生による授業評価結果を整理し、さらに専任教員による授業点検シートを集約した結果について報告する。なお、学生による授業評価アンケートは、システム上、後期あるいは次年度前期の履修科目を登録する際に、授業評価を行わないと登録できないシステムとして設定し、学期末試験前 1～2 週間前に実施した。

1) 学生による授業評価

授業評価は、例年通り、「1. 学生の受講態度について③ 項目」、「2. 授業内容について 6 項目」、「3. 授業の進め方について 4 項目」、「4. 担当教員 について 3 項目」、「5. その他

2 項目」について) について、別添のようにアンケート方式で実施した。また、自由記述欄も設けた。本アンケートは、大学内のデータベース上に構築し、前・後期終了前に学生が直接回答するようになっている。

平成 30 年度前・後期における学生による授業評価は、別表の通りとなった。教養用教育分野（教養基礎科目、教養発展科目）、専門教育分野（専門基礎科目、専門科目）及び卒業論文の順に整理した。また、アンケート中の項目について、従来通り、十分（4 点）～しなかった（1 点）で評価し、その評価点平均値を教員 GPA とした。教員 GPA は、学生の成績 GPA に相当することから、本報告書では「教員 GPA」記述とする）と呼称した。

一部のみ開講科目を除き、平成 30 年度前・後期に専任教員及び非常勤講師により開講された科目は 118 科目であった。学生による授業評価を総括すると、教員 GPA 点が 3.5 以上の科目が開講された科目中 76%であった（87.5%の学生が満足と評価）。GPA が 3.0～3.5 の科目はわずか 11 科目（9.3%）であった。講義当たりの学生数により若干教員 GPA が低下する傾向にあるが、いずれにしてもこれらの教員 GPA 値は極めて高い水準にあると判断している。小学校・幼稚園・保育所の教員養成学部として、学生に教科力と教育実践力を育成することを目的として設置されていることから当然と言えば当然である。しかし、平成 26 年度教育学部設置後、学生による授業評価・コメント等を参考にし、ついで授業点検シートにおいて専任教員が次年度以降にどのような点に気をつけて授業改善に努めるかを自己点検・確認・改善してきた努力の結果であると考えている（授業点検シートの項目で考察）。

以上のように、今年度は授業評価について詳細に分析した。その結果、学生による授業評価結果のみに注視するのではなく、個々の授業評価の項目及びその総合点が意味するもの及び教員相互の授業参観等を考慮した時、幾つかの問題がクローズアップされた。すなわち、学生による授業評価結果のみの数字に囚われることなく、その背景にある問題である学生の基礎学力をアップさせ、さらに授業外学習（自宅学習）時間を適正な時間数を確保しつつ、本学部の授業改善と教育の質保証に取り組む必要があることが明確となった。

最近、3つのポリシーについて、再度見直しを行い、再策定し、本学のホームページへアップした。この3つのポリシーについて、実質化を図ることが学校教育法の改正に伴い、法律的に求められることになった。特に、ディプロマポリシーの実質化、すなわち教育学部と

表1 学生による授業評価結果（平成30年度）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数	授業形態	2018年度 (平成30年度)				備考	
					前期		後期			
					受講者数	評価点 (平均)	受講者数	評価点 (平均)		
教養基礎科目	忍ヶ丘教養Ⅰ	1前	2	講義	45	3.65				
	忍ヶ丘教養Ⅱ	1後	2	講義			46	3.69		
	忍ヶ丘教養Ⅲ	2前	2	講義	44	3.6				
	忍ヶ丘教養Ⅳ	2後	2	講義			43	3.58		
教養発展科目	人と文化	文学	1後	2	講義					未開講
		教育と社会	1前	2	講義	10	3.49			
		倫理学	1後	2	講義			41	3.53	
		心理学概論	1前	2	講義	46	3.85			
		日本語表現	1前	2	講義	26	3.77			
		音楽と文化	1前	2	講義	13	3.58			
		こども音楽療育士概論	1~4前	2	講義	31	3.86			
		こども音楽療育士演習	1~4後	1	演習	31	3.73			
		こども音楽療育士実習	1~4通	1	実習	31	—		3.89	
		国際・社会系	国際社会論	2前	2	講義	6	3.67		
	現代社会と歴史	2前	2	講義	—				未開講	
	日本国憲法	1前	2	講義	47	3.73				
	自然科学系	数学と生活	1後	2	講義			14	3.59	
		環境と科学	1後	2	講義			19	3.68	
		生命と科学	1後	2	講義			12	3.71	
		食の科学	1前	2	講義	16	3.56			
		情報処理Ⅰ	1前	2	演習	46	3.46			
		情報処理Ⅱ	2前	2	演習					
	外国語系	英語Ⅰ	1前	2	講義	45	3.55			
		英語Ⅱ	1後	2	講義			24	3.49	
英語コミュニケーションⅠ		1後	1	演習			46	3.76		
英語コミュニケーションⅡ		2前	1	演習	47	3.54				
英語コミュニケーションⅢ		2後	1	演習			6	3.58		
Special Studies in EnglishⅠ		3後	1	演習						
Special Studies in EnglishⅡ		4前	1	演習						
健康・体育系	健康の科学	1後	1	講義			43	3.7		
	体育実技	1前	1	実技	45	3.84				
	子どもと食育	1後	2	講義			5<			
専門教育分野	専門基礎科目	教職概論	1前	2	講義	46	3.42			
		教育原理	1後	2	講義			45	3.60	
		教育心理学	1後	2	講義			46	3.68	
		教育制度論	3後	2	講義			32	3.51	
		保育原理	1前	2	講義	15	3.77			
		児童家庭福祉	3後	2	講義			22	3.67	
		社会福祉	3前	2	講義	27	3.62			
		相談援助	4前	1	演習	13	3.95			
		社会的養護	3前	2	講義	27	3.61			
		保育者論	1後	2	講義			26	3.79	
	対象の理解	保育の心理学Ⅰ	2前	2	講義	27	3.75			
		子ども家庭支援の心理学	2後	2	講義	—	—	—	—	
		保育の心理学Ⅱ	2後	1	演習			14	3.7	
		子どもの保健Ⅰ	3通	4	講義	14	3.6			
		子どもの保健Ⅱ	3後	1	演習			12	3.69	
教科・基礎技能	子どもの食と栄養	2後	2	演習			22	3.66		
	家庭支援論	4前	2	講義	14	3.95				
	臨床心理学	2後	2	講義			20	3.53		
	国語(書字を含む。)	1前	2	講義	46	3.6				
	国語Ⅱ	3前	2	講義	—	—	—	—	令和元年度以降開講	
	社会Ⅰ	1後	2	講義			36	3.62		
	社会Ⅱ	3前	2	講義	—	—	—	—	令和元年度以降開講	
	算数	1前	2	講義	45	3.67				
	算数Ⅱ	3前	2	講義	—	—	—	—	令和元年度以降開講	
	理科	1後	2	講義			37	3.59		
教科・基礎技能	理科Ⅱ	3前	2	講義	—	—	—	—	令和元年度以降開講	
	生活	2前	2	講義	25	3.86				
	音楽	1前	2	演習	45	3.86				
	図画工作	2前	2	演習	21	3.65				
	家庭	2前	2	講義	4	3.96				

専 門 教 育 科 分 野	教 育 科	専 門 教 育 科 分 野	体育	1前	2	演習	32	3.85					
			英語	2前	2	講義							
			ピアノ・声楽Ⅰ	2前	1	演習	32	3.67~ 3.82					
			ピアノ・声楽Ⅱ	2後	1	演習			38	3.71~ 3.95			
			ピアノ・声楽Ⅲ	3前	1	演習	16	3.49~ 3.82					
			ピアノ・声楽Ⅳ	3後	1	演習			9	3.74			
			子どもの音楽活動	2後	1	演習			41	3.71			
			子どもの英語活動Ⅰ	2前	1	演習	43	3.62					
			子どもの英語活動Ⅱ	2後	1	演習			22	3.68			
			国語科教育法Ⅰ	3前	2	演習	21	3.42					
			国語科教育法Ⅱ	3前	2	演習	15	3.44					
			国語科教育法Ⅲ	3後	2	演習			5	3.79			
			社会科教育法Ⅰ	3前	2	演習	22	3.53					
			社会科教育法Ⅱ	3前	2	演習	8	3.87					
			社会科教育法Ⅲ	3後	2	演習			10	3.75			
			算数科教育法Ⅰ	3前	2	演習	21	3.53					
			算数科教育法Ⅱ	3前	2	演習	12	3.59					
			算数科教育法Ⅲ	3後	2	演習			10	3.45			
			理科教育法Ⅰ	2後	2	演習			30	3.54			
			理科教育法Ⅱ	3前	2	演習	10	3.67					
			理科教育法Ⅲ	3前	2	演習	10	3.64					
			生活科教育法	2後	2	演習			30	3.54			
			音楽科教育法Ⅰ	2前	2	演習	28	3.75					
			音楽科教育法Ⅱ	3前	2	演習	8	3.4					
			図画工作科教育法Ⅰ	2後	2	演習			31	3.58			
図画工作科教育法Ⅱ	3前	2	演習	15	3.57								
家庭科教育法	3前	2	演習	21	3.36								
体育科教育法Ⅰ	3前	2	演習	23	3.5								
体育科教育法Ⅱ	3後	2	演習			9	3.6						
英語科教育法Ⅰ	2後	2	講義	—	—	—	—						
英語科教育法Ⅱ	3前	2	講義	—	—	—	—						
道徳教育の指導法	2前	2	講義	30	3.58								
総合的な学習の時間の指導法	2後	1	講義	—	—	—	—						
特別活動の指導法	2後	2	講義			30	3.7						
特別支援教育概論	3後	2	講義			11	3.55						
教育の方法と技術	2後	2	講義			44	3.25						
学級経営論	3前	2	講義	21	3.52								
協同学習論	3後	2	講義										
教育課程論	2前	2	講義	45	3.54								
環境教育論	3後	2	講義										
学習の科学	4前	2	講義	21	3.85								
特別演習	4前	1	演習	—	—	—	—						
生徒指導・進路指導	2後	2	講義			29	3.74						
幼児理解	3前	2	講義	35	3.67								
教育相談	2前	2	講義	45	3.77								
専 門 教 育 科 分 野	専 門 教 育 科 分 野	専 門 教 育 科 分 野	保育課程論	2前	2	講義	44	3.61					
			保育内容総論	2後	1	演習			44	3.53			
			保育内容指導法(健康)	2後	2	演習			31	3.5			
			保育内容指導法(人間関係)	2後	2	演習			41	3.7			
			保育内容指導法(環境)	2前	2	演習	42	3.62					
			保育内容指導法(言葉)	2後	2	演習			34	3.74			
			保育内容指導法(音楽表現)	2前	2	演習	44	3.77					
			保育内容指導法(造形表現)	2前	2	演習	43	3.56					
			障害児保育	3前	2	演習	15	3.2					
			保育相談支援	3後	1	演習			15	3.67			
			社会的養護内容	4前	1	演習	15	3.89					
			乳児保育Ⅰ	1後	2	演習	—	—	—	—			
			乳児保育	1後	2	演習			18	3.67			
			ことばと遊び	1前	2	演習	20	3.82					
			音楽と遊び	1後	2	演習			41	3.74			
造形表現演習	3前	1	演習	21	3.38								
幼児体育演習	3後	1	演習			16	3.14						
教育実習指導	3後	1	実習			31	3.66						
教育実習Ⅰ(小学校)	3後	4	実習			20	3.76						
教育実習Ⅰ(幼稚園)	3後	2	実習			31	3.65						
教育実習Ⅱ(幼稚園)	3後	2	実習			11							
保育実習指導Ⅰ	2後	2	演習			11	3.74						
保育実習Ⅰα	2後	2	実習			14	3.79						

習 科 目	へこ	保育実習 I b	3前	2	実習					
		保育実習指導 II	4前	1	演習		3.98			
		保育実習 II	4前	2	実習		3.99			
		保育実習指導 III	4前	1	演習	—	—	—	—	未開講
		保育実習 III	4前	2	実習	—	—	—	—	未開講
		学校インターンシップ	1前	1	実習	—	—	—	—	*2
	実践演習	教職実践演習(幼・小)	4後	2	演習		—	36	—	
		保育実践演習	4後	2	演習		—	10	—	
	介護等体験	介護等体験	3前	1	実習	22	3.57			
	卒業論文	卒業論文	4通	4	演習	36	—		—	

* 平成29年度後期の授業評価はデータベースの不具合が発生したため、集計していない。

* 非常勤講師

* I 2019年度より科目名称変更

して、学生にディプロマポリシーに掲げた素養を卒業時には確実に身につけているかを確認する必要がある。従って、教育学部として組織的なFD活動により授業改善を行うことは、益々重要であることは言うまでもない。今後、学部としての組織的なFD活動について、ディプロマポリシーに掲げる素養を身に付けたかどうかを評価することを目的に掲げ、教職員の協力を得ながら推進する予定である。また、平成30年度の再課程認定でコアカリキュラムが導入されたことから、コアとなっている教育内容の達成度評価を行う必要がある。

2) 教員による授業点検シート

教員による授業点検シートは、平成26年度教育学部設置後の専任教員の重要なFD活動として、教員個人の授業改善のPDCAサイクルの一環として、以下の必要な事項をアンケート結果をFD委員会委員長あてに回答・提出している。

教員による授業点検シート

作成日 月 日

平成 年度	授業科目：	担当者：
授業の期別・曜日・時限： 期・ 曜・ ～ 時限		単位数：
授業の区分： 専門教育科目（必修・選択必修・選択）		教室：
受講者数（最終的に成績評価した学生数）： 学科内 名、 学科外 名		
「学生による授業評価」の実施： した・しなかった		出欠確認回数： 回
授業回数（試験を含まない）： 回		休講回数 ^(注1) 回
休講に対する代替措置（補講、レポート、その他）およびその回数：		
授業の方法・工夫（板書、使用機器、教科書、講義資料など）：		

成績評価方法（試験、レポートなど）と評価の基準：
レポートおよび答案の返却（返却時期と返却の仕方など）：
成績評価の内訳 ^(注2) ：秀　　%、優　　%、良　　%、可　　%、不可　　%
シラバスに記載した授業計画の達成度：
学生の学習状況（予習、復習、質問など）と学習態度：
「学生による授業評価」から見た来年度の課題：

注1：時間割に規定されている時間に授業を行わなかった回数

注2：比率算出の母数は最終的に成績評価した学生数とする。再・追試試験を含めて試験終了後に提出する。

特に、教育改善につながる PDCA サイクルのチェックを行い、アンケート項目で「学生による授業評価から見た来年度の課題として、教員がどのように改善するかを明記する」ようにしている。これら結果は本学部の FD/SD 活動の取組として公表している。各教員から提出された授業点検シートでは、問題点がある場合には改善方法等が的確に明記しており、教育学部 FD 委員会において確認していることから、教育学部として組織的な FD 活動は機能していると判断している。

今年度の授業点検シートでは、平成 26 年度以降～今年度前期までの教員 GPA の推移を示し、また、コメントとして良かった点や改善点までを総括して示し、授業改善に努めている教員が複数いること（今後、公表する予定）は、本学の教育の水準を維持・向上するために心強い限りである。

一方、課題として、高評価の講義・演習の中に、成績評価（秀、優、良、可、不可）の分布を見ると、そのピークは優又は良にある科目がある。これらについて、期末試験のレベル、採点基準やその内容について比較検討することが必要であることから今後検討課題としたい。最近の傾向として、各講義・演習の到達目標に対して何を身に付けたかで評価する方法が推奨（3つのポリシーの実質化における議論）されているが、授業評価等で高評価の講義・演習が学生の知識・技能を身に付けたかにつながっていない可能性も示唆された。これらについても今後検討したい。

以上